

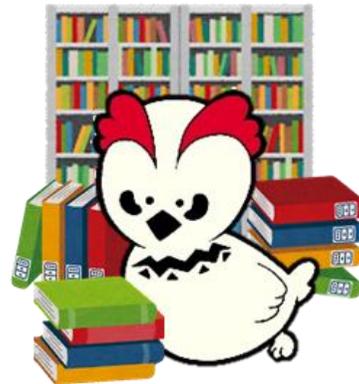


南アルプス市サードブック事業

# 本とともに

— きみのそばに この一冊 —

【小学校4・5・6年生にすすめる本】



司書が選んだ とっておきの本を紹介します

令和 5 年度



## サードブック事業とは

南アルプス市では、家庭における読書の推進と子育てを支援するため、4か月児健康診断時に絵本を手渡す「ブックスタート事業」、小学校1年生に本を手渡す「セカンドブック事業」、さらに小学校4・5・6年生と中学生にすすめる本を紹介する「サードブック事業」を実施しています。

児童・生徒が本への親しみや興味を持ち、心豊かに成長することを願い、市立図書館司書と学校司書がすすめる本を選びました。「小学校4・5・6年生にすすめる本」のリストと「中学生にすすめる本」のリストがあり、市立図書館のホームページからも見ることが出来ます。



図書館マスコットキャラクター

ライライ

きっと、あなたの背中を押してくれる一冊があるはずです。

本との素敵な出会いがありますように。

南アルプス市立図書館ホームページ

<http://m-alps-lib.e-tosho.jp>



こちらから



【 いまだ終わらない戦争について考えた時に 】

『これから戦場に向かいます』

写真・文／山本美香

出版社／ポプラ社

同じ山梨県で育ち、大学の先輩でもある山本美香さん。2012年8月、シリアにて銃撃に巻き込まれ、死亡したニュースを耳にした衝撃は今でも忘れられません。講義の中でも見聞きした、彼女の戦争取材。それらが深く胸に刻まれるのは、私達と同じように毎日を生きる女性や子ども達、そこで暮らす人々の顔がありありと映し出されていたからだと思えます。世界中の子ども達に、安心して眠りにつける夜がくることを祈り続けます。



【 家族のことで悩んだ時に 】

『ぼくらは星を見つけた』

作／戸森しるこ

出版社／講談社

青い屋根のお屋敷にはひとつの家族が住んでいます。ご主人のそらさん、息子の星、そしてハウスキーパーのシド。家庭教師としてやってきた岬くんは、この家族がどこかぎこちないことに気がつきます。星はそらさんのことを「お母さん」と呼びません。でもご飯を食べるときはみんな一緒です。仲がいいのか悪いのか…。

なぜ家族は一緒にご飯を食べるのでしょうか？私も過去に考えたことがあります。昔の私にこの本を届けたいです。



【 不思議な世界を知りたい時に 】

『まるで魔法のような本当の話』

著／TERUKO

出版社／くもん出版

日本では見られない外国の自然や風景が好きで、よく写真集を眺めます。自分の目で確かめてみたくて実際に色々な国へ旅行に行きました。この本には「本当にそんな場所があるの？」「そんな植物が？」など、信じられないけれど、実在する不思議なものばかりが集められています。世界は自分が知らないことばかりなのだということに気が付き、知らない世界にわくわくするはずですよ。



【 悪魔のささやきに負けそうになった時に 】

『少年のひ』

ミスとテリーでミステリー』

文・絵／飛兒 おくら

出版社／文芸社

お家の人に隠し事をしたくなってしまったことが、みなさんにはありますか？子どものころ、私にはありました。この本の主人公のテリーくんは悪いことをしてしまいますが、悪魔のささやきに打ち勝ち、お家の人に正直に打ち明けます。

間違いを犯しても、そのあとに正しい行いをするための大切さに気付かせてくれる本です。この本を作った飛兒おくらさんは山梨県出身の方です。ぜひ読んでみてくださいね。

【 とことん雪の結晶について知りたいときに 】



『雪の結晶ノート』  
 作 / マーク・カッシーノ  
 / ジョン・ネルソン  
 訳 / 千葉茂樹  
 出版社 / あすなろ書房

冬の寒い日、降ってきた雪を手袋の上のせてみたことがありました。とてもきれいで、不思議な形をしていたので見とれていると、あっという間に溶けてしまい、興味がわいてきました。雪は結晶で様々な形のものがありますが、似ているものはあっても全く同じ形のものはできないそうです。それを知って、私たち人間と同じだなと思いました。みなさんもこの本を読んで、雪の結晶を観察してみませんか。



【 ひとりぼっちだと思ったときに 】

『口で歩く』  
 作 / 丘修三  
 絵 / 立花尚之介  
 出版社 / 小峰書店

「口で歩く」どうやって？と思ったことがこの本を読んだきっかけでした。この本の主人公のタチバナさんには、障がいがあります。一人では歩くことが出来ません。では、どうやって歩くのでしょうか。障がいのある人の気持ちは、私たちにはわかりません。でも、みんな同じ人間です。一人では生きていけません。お互い助けあって生きています。私も、そしてあなたも、一人じゃないと思えるはずですよ。

【 「何か」に失敗して、自信がなくなったときに 】



『勇氣』  
 文・絵 / バーナード・ウェーバー  
 訳 / 日野原重明  
 出版社 / ユーリーグ(現：丸メカホールディングス)

今までは困難な出来事に勇敢に立ち向かうことこそ、「勇氣」だと思っていましたが、この本を読み色々な種類の勇氣があるという事に改めて気付かされました。それ以来、毎年卒業を前にした6年生や中学3年生におすすめています。失敗しても挑戦したことが「勇氣」だったと思えると、もう一度、挑戦してみようという気になれるかもしれません。



【 祖父のことを思ったときに 】

『せんそうがおわるまで、あと2分』  
 作 / ジャック・ゴールドスティン  
 訳 / 長友恵子  
 出版社 / 合同出版

私が子どもの頃、祖父は、身長が数センチ足りず、兵隊になれなかったと話してくれました。結局、兵隊の数が足りなくなり、祖父に戦争に行く命令がきた次の日に戦争が終わったのだそうです。

この本を読み、そういえば祖父は、戦争に行った人のこと、戦っていた国のことも話さなかったことに気がつきました。どうか、この本の表と裏だけでも見てください。二人の兵士が仲の良い友達だったことがわかります。



【 言葉にふれなくなった時に 】

『谷川俊太郎詩集 たったいま』  
詩 / 谷川俊太郎  
絵 / 広瀬弦  
出版社 / 講談社

「卒業生にエールを」という思いから毎年図書館では、教科書でもおなじみの谷川俊太郎さんの詩を卒業記念として贈っています。学校や友達の悩み、大人になる不安が出てくる思春期の入口に立つみなさんにおすすめの一冊です。まず、声を出して詩をゆっくり読んでみてください。言葉の響きやリズムに気持ちがはずみます。落ち込んだ時は癒されたり、励ましてくれることもあるでしょう。さあ、今日はどの詩の言葉にふれましょうか？



【 憧れの世界に浸りたい時に 】

『女王さまのワードローブ〔改訂版〕』  
文 / ジュリア・ゴールドディング  
絵 / ケイト・ヒンドレー  
訳 / 前沢明枝  
出版社 / BL出版

幼い頃、テレビに映ったエリザベス二世の戴冠式の映像を見て、厳かで華やかな空気感に圧倒されたのを覚えています。27歳での王位継承から70年、96歳で逝去された女王の人生。意匠や装飾品などのワードローブを通して、幼少期から女王になったきっかけなど、数々のエピソードを伝えてくれます。王室の由緒ある品々はもちろん、戦時中、軍に入隊してエンジンの交換をした経験などに、ますます憧れの気持ちが募ります。



【 自分は何になりたいのか迷った時に 】

『おとなになるのび太たちへ  
人生を変える『ドラえもん』セレクション』  
まんが / 藤子・F・不二雄  
出版社 / 小学館

小学生の頃、のび太のように私もタイムマシンで未来に行けたらなあとお勉強機の引き出しを開け、想像した事がありました。もし、あの時タイムスリップしていたなら…!?

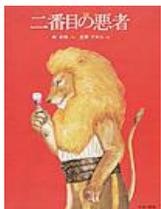
ユーモラスに描かれた『ドラえもん』のどのエピソードにも“学び”があり、憧れの職業に就いた大人たちから、皆さんへ伝えたいことが書かれています。今この瞬間を大切に、素敵な未来へ歩き始めてください。



【 気になって仕方ない時に 】

『キニ子の日記（上巻・下巻）』  
作 / 間部香代  
絵 / クリハラタカシ  
出版社 / WAVE出版

いろんなことが気になる満望小学校6年F組のキニ山キニ子ですが、気になることを日記に書いて、それに対して担任の須原介先生が赤いコメントで回答をしていく本です。知らないことや分からないことはたいてい本で調べてきたのですが、須原先生がどうやってキニ子の気になることに答えているのかが、わたしはとっても気になっています。でも回答のないこともあるようなので、分からないままかもしれませんね。



【 誰かの悪口を聞いた時に 】

『二番目の悪者』

作 / 林木林

絵 / 庄野ナホコ

出版社 / 小さい書房

悪口を聞くとぞわっとしませんか。特に自分の好きな友だちや先生の悪口を一度聞いてしまうと「え、本当かな？本当なら嫌だからちょっと仲良くするのやめようかな。」と想着てしまいませんか？わたしは中学校1年生の時にそう思ったことがあります。そんな風に思った時はこの本を開いてみてください。その後どんなことが起こるかが書いてあります。自分の目で、耳で、頭でしっかり本当のことを確かめてください。



【 平和について考えようと思った時に 】

『甲府の動物園物語』

作・絵 / 三井ヤスシ

出版社 / ミツクリエイティブ

甲府市にある遊亀公園付属動物園であった本当のお話です。園長さんは戦争によりエサ不足や猛獣処分など色々な問題がある中、動物たちの命を守るため奮闘しました。はたして動物たちを守ることはできたのでしょうか？何度も楽しませてもらった動物園の過去に、そんな悲しい出来事があったことを知り、とても心が痛みました。自分にとって、とても身近な場所だからこそ、戦争について、より多くのことを学ぶきっかけになった一冊です。

【 いろいろあって悩んでいる時に 】

『おとなを動かす悩み相談クエスト  
こども六法NEXT』

監修 / 山崎聡一郎

漫画 / 森井ケンシロウ 漫画原作 / 古城宏

出版社 / 小学館



いろいろあって悩んでいる時には、どうしたらよいかわからなくなりますよね。そんな時はこの本を読んでみましょう。子どもだけで解決できなくても、本当に動いてくれるおとなを探すことが大事です。私も相談しても動いてくれる人がいなくて辛いときがありましたが、何人もの人に相談して動いてくれる人を見つけました。みなさんもおとなに相談することは悪いことではないので、自分の話を聞いて動いてくれるおとなをあきらめずに探しましょう。

【 勇気が欲しい時に 】

『ろくぶんの、ナナ』

作 / 林けんじろう

絵 / 高橋由季

出版社 / 岩波書店



引っ込み思案のナナは、ある日、不思議なサイコロをもらいます。1から6までの個性豊かなサイコロの目たちとのやりとりから、少しずつナナは変わりはじめます。私の家族や友人など、大切な人のためにと思うと、いつも以上の力が出て自分でも驚いたことがあります。あと少しの勇気が欲しい時にぜひこの本を読んでみてください。友達のために一生懸命頑張るナナの姿が一步を踏み出す勇気をくれると思います。



【 命について考えた時に 】

『ぼくんちのねこのはなし』

作 / いとうみく

絵 / 祖敷大輔

出版社 / くもん出版

命には必ず別れがあります。私は幼い頃から、多くの別れを経験してきました。予想していたものもあれば、予想していなかったものもあります。

この本は、ある家族と暮らす一匹のねこの、最後のお話です。別れと聞くと悲しいマイナスなイメージが強いですが、本当にそれだけでしょうか。別れを選ばなければいけないとき、後悔のないよう、この本を読んで身近な命と向き合ってみませんか。



【 ヒミツの冒険をしたい時に 】

『ふたりのロッチェ』

作 / エーリヒ・ケストナー

画 / ワルター・トリヤー

訳 / 高橋健二

出版社 / 岩波書店

おたがいを知らずに育ったふたごのルイーゼとロッチェが偶然出会い、別れた両親を仲直りさせるために誰にも内緒で入れ替わります。この本を原作にしたテレビアニメが私が子どもの頃に放映されていて、二人の冒険をハラハラしながら観ていました。大人の都合に子どもは振り回されますが、ふたごが自分たちの願いをかなえるために勇気と知恵をふりしぼって立ち向かう様子に心を打たれます。ぜひ子ども時代に読んでほしい一冊です。



【 大切な人の気持ちに寄りそいたい時に 】

『クラゲに願いを!』

作 / 宇佐美牧子

絵 / pon-marsh

出版社 / 文研出版

自分の周りには大切な人たちの気持ちに寄りそいたい時、言葉にして伝えるべきか、何も言わずにいるべきか、どちらを選んだら良いか難しく悩みます。

主人公の穂乃は人の気持ちが気になって、自分の思いをなかなか言えません。時々悲しい顔をしているおばあちゃんの力になれることがないか考えたり、仲良しの泉ちゃんとの約束を守るために悩んだりします。穂乃の心の変化を見守りながら、自分ならどうするか考えてみませんか。

令和5年度

南アルプス市サードブックリスト  
【小学校】

編集・発行者 南アルプス市学校司書  
南アルプス市立図書館司書

発行日 令和6年1月 Vol. 3

南アルプス市立図書館ホームページ  
<http://m-alps-lib.e-tosho.jp>



南アルプス市サードブック事業

# 本とともに

— あなたに寄りそう一冊 —

【中学生にすすめる本】



司書が選んだ とっておきの本を紹介します

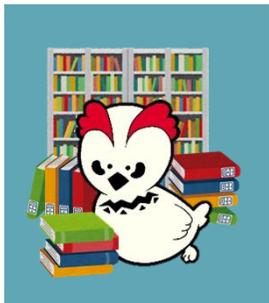
令和 5 年度



## サードブック事業とは

南アルプス市では、家庭における読書の推進と子育てを支援するため、4か月児健康診断時に絵本を手渡す「ブックスタート事業」、小学校1年生に本を手渡す「セカンドブック事業」、さらに小学校4・5・6年生と中学生におすすめの本を紹介する「サードブック事業」を実施しています。

児童・生徒が本への親しみや興味を持ち、心豊かに成長することを願い、市立図書館司書と学校司書がおすすめの本を選びました。「小学校4・5・6年生にすすめる本」のリストと「中学生にすすめる本」のリストがあり、市立図書館のホームページからも見ることが出来ます。



図書館マスコットキャラクター

ライライ

きっと、あなたの背中を押してくれる一冊があるはずです。

本との素敵な出会いがありますように。

南アルプス市立図書館ホームページ

<http://m-alps-lib.e-tosho.jp>



こちらから



【 夢を叶えたいと思った時に 】

『オタクを武器に生きていく』

著 / 吉田尚記  
出版社 / 河出書房新社

好きな事を仕事にするには、どうすればいいのか？そのヒントが載っているのが、この本です。声優や経営者などの体験談は、好きな事を仕事にするための道筋、仕事に対する心構えが明確化され、「こうすれば、好きな事を仕事にできるかも。」と夢を叶えるための一歩、また、夢を見つけるきっかけになるとおもいます。私も進路で悩んだ時、母の紹介で保育士の方に相談に乗ってもらいましたが、その時に、この本とも出会っていたかったです。



【 困難に立ち向かう時に 】

『ゲド戦記 1 影との戦い』

著 / アーシュラ・K.ル=グウィン  
訳 / 清水真砂子  
出版社 / 岩波文庫

自分の力を過信したゲドは、地の底から災いを呼び出してしまい、その時から絶えず影に脅かされます。学生のころは進路や友人関係、社会人になってからは仕事のトラブルや家族の悩みなど、生きていくと次々に困難な状況に見舞われ、投げ出されたいとも思いました。でも、この本を読んだら、ゲドが影と最後に対峙する時に口にした影の名前を知ると、困難に立ち向かう時、本当に向き合わなければならないのは何なのかに気づかされます。



【 ユーモアたっぷりの世界を旅したい時に 】

『ムーミン全集 [新版] 1

ムーミン谷の彗星』

著 / トーベ・ヤンソン  
訳 / 下村隆一  
出版社 / 講談社

生活の中で少し気がふさいだり落ち込んだりした時、この本を手に取ります。いつも静かで安全なムーミン谷に彗星がやってくる！未知の恐ろしい状況におかれても、くすりと笑ってしまうようなムーミン達の様子に元気がもらえます。彼らのふとした言葉にはっとさせられ、困難な中でも考え方や少しの勇気で気持ちを切り替えられることに気付かされました。個性豊かで前向きな彼らと旅をすれば、新しい自分に出会えるかもしれません。



【 様々な場面で迷った時に 】

『人生の答えは家庭科に聞け！』

著 / 堀内かおる / 南野忠晴  
画 / 和田フミ江  
出版社 / 岩波ジュニア新書

私は料理も裁縫も苦手です。でもこの本を読んで、家庭科に興味を持ちました。中学生になると友人関係や進路など、迷ったり悩んだりすることが増えると思います。この本には様々な場面で直面するかもしれない悩みが取り上げられ、家庭科で習う知識や考え方から解決策をアドバイスしています。家庭科が好きな人も、苦手な人も、ぜひ読んでみてください。



【 スカッとしたい時に 】

『十二国記 月の影 影の海  
(上巻・下巻)』

著 / 小野不由美  
出版社 / 新潮文庫

両親や周囲の人の顔色をうかがうようにして生きてきた高校生りょうしん しゅうい ひと かおいろの陽子りょうしん。慶国の王として異界へ連れて行かれ、妖魔に命を狙われ、人に裏切られながらも必死で生き延びようとします。身も心も傷付いた陽子を救ってくれたのは、信じる事を教えてくれた楽俊でした。

私が最初にこの本を読んだのは中学生の頃でした。それから何度も読み返していますが、読むたびに、生きるとは、正義とは、信じるとは何かという事を考えさせられます。



【 親の考えに疑問を持った時に 】

『親の期待に応えなくていい』

著 / 鴻上尚史  
出版社 / 小学館

小さい頃は親の言うことが正しくて、従うのがあたりまえだと思っていました。でも、成長して自分の考えを持つようになると、親の言うことを素直に聞けなくなりケンカが多くなった気がします。

この本を読んで、親との関係に必要なのは「期待に応える」ことではなく、お互いの考えの違いを認め合うことだと感じました。たとえ面倒だとしても、それが「自分のための人生を生きる」のに必要なのではないのでしょうか。



【 大切な人の力になりたいと思った時に 】

『with you ウイズ・ユー』

著 / 濱野京子  
出版社 / くもん出版

中学3年生の悠人が出会い、惹かれた少女・朱音はヤングケアラーでした。悠人は朱音が抱える重たい何かを感じ、力になりたいと思うようになりますが…。この本を読んでから“ヤングケアラー”の報道に目を向けるようになりました。私の子どもとほぼ同世代の子どもの現状に衝撃を受けたからです。悠人のようにひとりで抱え込まず誰かに頼り、相談することで、自分や大切な人の力になれるということを知ってほしいと思います。



【 不安や悩みに自分を見失いそうな時に 】

『15歳、まだ道の途中』

著 / 高原史朗  
出版社 / 岩波ジュニア新書

中学3年生の主人公が、友人関係などの悩みを「学級通信」を使ってクラスメートと共有します。そして、お互いの立場になって考えることで相手を思いやる気持ちや尊重することなどを学び、成長していくお話です。迷い、悩みながら送った学生時代を思い出し、この本のように同じ目線で考えてくれる先生や友達がいる事は大きな支えになると思いました。「まだ途中、これからなんだ！」と背中を押してくれる一冊です。



【 本当の幸せについて考えるときに 】

『アルジャーノンに花束を』

著 / ダニエル・キイス

訳 / 小尾芙佐

出版社 / 早川書房

学生時代は勉強やスポーツにおいて自分と誰かを比べたり、友達を羨ましいなと感じたりする場面があるかも知れません。私も運動が苦手で、もっと運動神経が良く生まれていればと思ったこともありました。そんな時、この本と出会い、本当の幸せとは何なのか深く考えさせられました。憧れていた世界で主人公は望んでいた景色を見ることができたのか。表紙いっぱいに描かれた花束に込められた想いを感じながら読んでみてください。



【 もう少し頑張ってみようと思ったときに 】

『あと少し、もう少し』

著 / 瀬尾まいこ

出版社 / 新潮社

寄せ集めのメンバーで中学駅伝に挑む物語です。6区間がそれぞれの走者の視点で描かれており、内容が絡み合って関連し、共鳴し合う疾走感があります。走ることが嫌いな私は学校行事の強歩大会が苦手でした。でも練習を重ねていくことで、だんだん走れる距離が伸びていったことが嬉しかったのを覚えています。その時に感じた「もう少し頑張ってみよう」という気持ちを今でも思い出します。この作品もそんな気持ちを思い起こさせてくれます。



【 なんのために生きているのかを考えたときに 】

『メメントモリ』

著 / ヨシタケシンスケ

出版社 / KADOKAWA

メメントモリ（いつか必ず死ぬことを忘れるな）というラテン語の言葉をテーマにした、生きる意味について考えるお話です。大人になった今でも、こんなはずじゃなかった…と思う事はたくさんありますが、この本のように「思ってたのとちがう！」と、びっくりするために生きていると考えたら、人生をもっと前向きに捉えることができると思います。どんな生きかたをしてもいいんだ、と言葉がストーンと腑に落ちる感覚を味わってください。



【 想像力をつけたいときに 】

『このよでいちばんはやいのは』

原作 / ロバート・フローマン

翻案 / 天野祐吉

絵 / あべ弘士

出版社 / 福音館書店

翻訳者の天野さんの講演会でのご本人による読み聞かせが、この本との出会いでした。天野さんの低い声で語られるおはなしにぐいぐいと引き込まれて、私の心は想像力の宇宙にぼっかりと浮かびあがりました。読み聞かせてもらうことの良さをあらためて感じる体験でした。

この世で一番早いものは、さて、なんでしょう。大人になる少し手前のみなさんに、自分にむけて読み聞かせをしてほしい一冊です。



【 温かい気持ちになりたい時に 】

『博士の愛した数式』

著 / 小川洋子  
出版社 / 新潮社

記憶が80分しかもたない数学博士と家政婦、家政婦の10歳の息子の三人が過ごした、不思議で悲しい、けれど温かい日々物語です。

中学生のころにこの本を読み、自分が博士のようになったら、家政婦の立場だったら、誰かのためにこんなにも行動できるだろうかと考えたことを覚えています。記憶が80分しかもたないことにより起こる悲しい出来事を、互いが互いを思いやることで乗り越えていく様子に心が温かくなります。



【 看護師に興味をもった時に 】

『ナイチンゲール』

よみがえる天才9』  
著 / 金井一薫  
出版社 / ちくまプリマー新書

『学研まんが伝記シリーズ』で読んだナイチンゲールは、だれにもやさしくてヒーロー的でかっこいいなあと思いました。今は「換気と手洗い」は医療現場の常識ですが、当時は全く逆の考えでした。それを覆すのに彼女がとった行動こそ新型コロナウイルス感染防止対策の対応です。まんがでは深掘りできなかった彼女の勇姿がこの本で読み取れました。看護師になりたいと思っている人や、医療や福祉に興味がある人にもオススメの一冊です。



【 宇宙のことをより身近に感じてみたい時に 】

『宇宙飛行士だから知っている  
すばらしき宇宙の図鑑』

著 / 野口聡一  
出版社 / KADOKAWA

宇宙と聞いて思い浮かべるイメージは様々ですが、例えば宇宙はどんな匂いがするのか興味がありませんか。

私は子どもの頃に星の観測で月を見上げた時、今から何十年も前にあの場所に人が降り立ったという事実がとても不思議で、それが宇宙に興味を持ったきっかけでした。

この本では、宇宙飛行士の野口さんの豊富な経験をもとに、宇宙に関する疑問や知識を分かりやすく学べます。あなたもぜひ新たな宇宙の魅力を見つけてみてください。



【 数学に苦手意識を感じた時に 】

『直感とちがう数学』

監修 / 葉一  
原案 / タカタ先生  
絵 / カシワイ  
出版社 / Gakken

普段、私たちの生活にどのくらい数学が役に立っているか、考えてみたことはありますか？私は学生のころから数学が苦手で、今でも難しそうな数式をさけて、なんとなく直感で生活しています。しかし、本書を読んで、直感と数式から割り出した事実の違いに驚きました。難しい数式はなく、考えるのが楽しい問題が多いので、数学に苦手意識がある人こそ読んでもらいたい一冊です。解説も丁寧なので数式の利用方法をよく理解することができます。

【 ちよっとだけ冒険してみたくなくなった時に 】



『ペンダーウィックの四姉妹 1  
夏の魔法』

著 / ジーン・バズオール

訳 / 代田亜香子

出版社 / 小峰書店

ペンダーウィック家の四姉妹、ロザリンド、スカイ、ジェーン、バティが過ごした素敵な夏の物語です。夏休みの間の3週間を広い庭付きのコテージで過ごした少女たち。そこでかけがえのない友人ジェフリーと出会い、楽しい夏を過ごします。

便利なもので溢れている時代に慣れてしまった私には、彼女たちのように楽しいことを自分たちで見つけ出す日々が、とても懐かしく思うと同時に羨ましくなった一冊です。



【 支援が必要な人の世界にふれた時に 】

『手で見えるぼくの世界は』

著 / 榎崎茜

挿画 ・ 挿絵 / 酒井以

出版社 / くもん出版

主人公は視覚支援学校中等部の男の子です。あることがきっかけで介助のないひとりでの外出が怖くなり、自分の世界の広げ方に悩みます。私が中学生の時、白杖を持たない中途失明者に道をたずねたことがあります。その人はこの周辺の道は全て頭の中にあると言ひ、ていねいに道順を教えてくださいました。習慣や努力の上で得たものに驚いた出来事でした。この本は、支援が必要な人の気持ちについて深く考えるきっかけになった一冊です。



【 山梨を知りたいと思った時に 】

『私立じゃんすらけ小学校の  
楽しい甲州弁』

著 / 五緒川津平太

出版社 / 樹上の家出版

祖父母の甲州弁を聞いて育った私は、自然と方言を使って話をしていました。他県の友人からすると、甲州弁は怖く感じるようで「何で怒っているの？」とよく聞かれました。

それぞれの土地で生まれた方言は、同じような言葉でも地域が変わると言い方も違ってきますが、そこに温かみを感じてしまうのは、どの方言も変わりません。甲州弁を面白く紹介しているこの本で山梨のことを学んでみませんか？

令和5年度

南アルプス市サードブックリスト  
【中学校】

編集・発行者 南アルプス市学校司書  
南アルプス市立図書館司書

発行日 令和6年1月 Vol. 3

南アルプス市立図書館ホームページ  
<http://m-alps-lib.e-tosho.jp>